SAS (SAS Enterprise Guide) 使用方法

(1因子(1種類のデータ)の概要を見る

~データをまとめる~)

目次

| (1) | ヒストグラムおよび、累積度数分布の確率プロットの表示 | 2 |
|-----|----------------------------|----|
| (2) | 代表値とばらつき(散布度)の求め方 | 4 |
| (3) | データの関数変換を行う | 7 |
| (4) | 度数分布表の作り方 | 10 |
| (5) | データの再分類 | 12 |

- (1) ヒストグラムおよび、累積度数分布の確率プロットの表示
 - 1) SAS Enterprise Guide を起動し、使用するデータの表が表示されている状態まで進める。
 - 2) 上部メニュー内の [記述統計]をクリックし、その下に表示されるメニュー内の [分布] をクリックする。



3)新しいウィンドウが開くので、ヒストグラムや累積度数分布の確率プロットを表示する 変数を「変数リスト」の下のリストから選んでクリックする。そして、その右隣りにある 右向き矢印のボタンをクリックし、新たに表示されたメニューから「分析変数」をクリッ クする。

| MPW_0006 の 分布 タスクの役割 分布 概要 正規分布 対数正規分布 指数分布 Weibull 分布 ベータ分布 ガンマ分布 核 グラフ 表示 インセット テーブル タイトル | タスクの役割 変数リスト(金) 名前 ② F1 ③ 注字氏名 ④ 注別 ● 年齢(才) ③ 年令階級 ④ 呼煙 ④ 年数(年) ⑨ 本数(本/日) ⑨ 身長(cm) ⑩ 衛童(kg) ⑨ 最高血圧(mmHg) ④ 尿重時 ④ 尿雪白 | タスクの役害()E): ● 分析変数 ● グループ分析 ● 度数カウント (違択の上限: 1) ● 分析変数 ● 分析変数 | × |
|--|--|--|---|
| ○□ードのブレビュー(「☆析変教」、役実地には、 | (3) 取15(LLL)上(mm/m ²) ▲ 尿 ▲ 尿 ● 示 ③ 赤 血球(万個/mm3) ④ 血色素(g/dl) ○ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ | ● ^{全か} ● 分類変数 ● 小 → ま行(B) 上書ぎ保存(S) キャンセル ヘルプ | |

- 4) 右の「タスクの役割」の下の「分析変数」の下に、選択した変数名が表示されているこ とを確認する。
- 5) 左端のメニューから「分布」の下の「正規分布」をクリックし、新たに表示された右側 の画面で、「正規分布」の前のボックスにチェックを入れる。

| | × 分布 > 正規分布 ▼ 正規分布(N) ▼ 分布をすべての変数に適用する(A) |
|---|---|
| 対数止現分布 指数分布 Weibull 分布 ベータ分布 ガンマ分布 核 グラフ 表示 インセット テーブル タイトル | 分析変数(⊻): 平均 (ミュー)(M) 標準偏差(シグマ)(G) ●(Q): ●(Q): ●(Q): ●(型): ●(D): |
| | |

6) 左端のメニューから「グラフ」の下の「表示」をクリックし、新たに表示された右側の 画面で、「ヒストグラム」と「確率プロット」の前のボックスにチェックを入れ、下にあ る「実行」ボタンをクリックする。

| <u> </u> ⊾IMPW_0006 の 分布 | ī | | | | | | 2 |
|---|--|--------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------|---|
| タスクの役割 | グラフ > 表示 | | | | | | |
| ガガ 概要 正規分布 対對正相公布 | 注: インセット プロットのみ有 | は、ヒストグラム、確率プロット、QQ i効です。 | 軸の色: | 背景色: | 軸の幅: | | |
| *100年2月27日 指数分布 Weibull 分布 ベータ分布 | | ヒストグラム(H) | • | • | 1 | • | |
| ガンマ分布 核 ガラフ | | | — | • | 1 | • | |
| 表示 表示 インセット テーブル | <u> 1997</u> | □ QQ プロット(Q) | - | - | 1 | Y | |
| 97 FJU | † • • | □ 箱ひげ図(8) | | | 1 | V | |
| | ************************************** | 🗖 テキストべースのプロット(L) | オブザベーシ かを、また箱 By 変数がす | ョン数に応じて 取げ図、正規: ある場合、プロ: | 「幹葉図、棒グう 確率プロットを作 ットは並列に作り | ラフのいずれ 乍成します。 成されます。 | |
| | | | | | | | |
| | 連続型の理論 タを示す参照線 | 分布の確率プロットを作成し、理論分 略重ね合わせます。 | 布に対して指 | 定または推定さ | れた位置パラメ | ータと尺度パラメー | |
| コードのプレビュー(| 0) | 実行() | B) | き保存(<u>S</u>) | キャンセル | | |
| | | | | | | | |

- 7) 画面に「分布」の分析結果が表示されるが、最下部にヒストグラムおよび、累積度数分 布の確率プロットが表示されている。
- 8) 最下部に下図のような累積度数分布の確率プロットがあるので、青い正方形のプロット が、左下から右上に伸びている黄色い直線上に乗っているかどうかを確認する。

青いプロットが黄色い直線上にほぼ乗っている場合は、この変数(データ)は正規分布していると判断してよい。もし、青いプロットが黄色い直線から大きくずれている場合は、この変数は正規分布していないと判断できる。



- (2) 代表値とばらつき(散布度)の求め方
 - 1) SAS Enterprise Guide を起動し、使用するデータの表が表示されている状態まで進める。
 - 2) 上部メニュー内の [記述統計]をクリックし、その下に表示されるメニュー内の [要約統



3) 新しいウィンドウが開くので、代表値とばらつき(散布度)を求める変数を「変数リスト」 の下のリストから選んでクリックする。そして、その右隣りにある右向き矢印のボタンを

クリックし、新たに表示されたメニューから「分析変数」をクリックする。

| > IMPW_0006 の 要約統計量 | × |
|---|---|
| SACTOR 201 SACTOR 201 第1日 基本 パーセント点 その他 グラフ 結果 タイトル 支数リスト(A) タスクの役割(E): 257 結果 タイトル 2前 (金) 注意 (金) 行う (金) 注意 (金) 行き (金) 行う (金) 注意 (金) 行う (C) 注意 (金) 行う (C) 注意 (C) 行き (C) | |
| 二コードのプレビュー(Q) 実行(B) 上書き保存(S) キャンセル ヘルプ | |
| "分析変数"役割には少なくとも1変数を割り当てる必要があります。 | |

- 4) 右の「タスクの役割」の下の「分析変数」の下に、選択した変数名が表示されているこ とを確認する。
- 5) 左端のメニューから「統計量」の下の「基本」をクリックし、新たに表示された右側の 画面で、求める統計量の前のボックスにチェックを入れる。
 - (注:「オブザベーションの数」(データ数)と「欠損値の数」には必ずチェックを入れ
 - <u>る</u>。分析するデータが正規分布している場合は、「平均」と「標準偏差」または「分 散」を求める)

| タスクの役割 統計量>基本 検討・量 基本統計量 グラフ 「年均(M) グラフ 「標準編差(D) グラフ 「標準課差(E) グラフ 「標準課差(E) 総計量 「アラルト」」 グラフ 「標準課差(E) 総計量 「アラルト」」 グラフ 「標準課差(E) 総計量 「アラルト」」」 グラフ 「標準課業差(E) 総計量 「アラルト」」」 クトル 日本(m(M)) 日本(m(M)) 日本(m(M)) 日本(m(M)) 日本(m(M)) 「会社(M)) 「会社(M)) 「会社(M)) | ି IMPW_0006 Ø 🕏 | 要約統計量 | | |
|---|---|--|----------------------------|---|
| 読計量 基本統計量 小鼓点以下の桁数(P): パーセント点 マ 平均(M) 小鼓点以下の桁数(P): その他 マ 標準編差(D) デフォルト グラフ 「標準誤差(E) 「 結果 分散(V) 最小値(N) 日最小値(N) 「最小値(N) 「会計(U) 「重みの合計(M) 「並みの合計(M) 「「東みの合計(M) マ オブザベーションの数(O) マ 大損値の数(L) | タスクの役割 | ᡬ計量 > 基本 | | |
| 「□ードのブレビュー(Q) 実行(B) 上書き保存(S) キャンセル ヘルブ | 統計量 パーセント点 その他 グラフ 結果 タイトル | 基本統計量 ▼ 平均(M) ▼ 標準編差(D) 「 標準課差(E) □ 分散(y) □ 最小値(N) □ 最大値(x) □ 範囲(G) □ 合計(U) □ 重みの合計(y) ▼ オブザベーションの数(Q) ▼ 欠損値の数(L) | 小数点以下の桁数(P): デフォルト マ | |
| 」 | | | | 4 |
| | ードのプレビュ | (<u>o</u>) | 実行(B) 上書き保存(S) キャンセル ヘルナ | |

6)「中央値」と「四分位数」を求める場合は、左端のメニューから「統計量」の下の「パー セント点」をクリックし、新たに表示された右側の画面で、「25%点」と「Median」と「75% 点」の前のボックスにチェックを入れる。

| | × IMPW_0006の要 | | l |
|---|---------------|---|---|
| - | タスクの役割 | 統計量 > パーセント点 | ł |
| | 統計量 基本 | パーセント点の統計量 | l |
| • | パーセント点 | □ 1 %点(1) | k |
| • | その他 | 〒 5 %点(5) | ł |
| 1 | グラフ | □ 10 %点(0) | ŀ |
| 1 | 和本 タイトル | ▼ 25 %点(L) | I |
| | | ₩ Median(<u>M</u>) | ł |
| | | ▼ 75 %点(山) | ł |
| | | 「 90 %点(I) | ł |
| 1 | | □ 95 %点(H) □ 95 %点(H) | ŀ |
| 1 | | 99 % <u>a</u> (9) | l |
| | | | l |
| | | | ł |
| • | | 分位占の計算方注(Q): | ł |
| 1 | | | l |
| 1 | | | l |
| | | | ł |
| | | | ł |
| - | | | ŀ |
| 1 | | Y | ŀ |
| | □−ドのプレビュ・ | -(<u>C)</u> 実行(<u>R)</u> 上書き保存(<u>S</u>)キャンセル ヘルプ | l |
| | | | ŀ |
| - | | | 1 |

- 7) 必要な「代表値」と「ばらつき(散布度)」の設定が完了したら、下の「実行」ボタンを クリックする。
- (補足 1; 上記の分析方法では、「最頻値」は求められない。このため、最頻値を求める必要がある場合は、「(1) ヒストグラムおよび、累積度数分布の確率プロットの表示」の方法を行うと、結果の上部の表に、最頻値が表示されている)
- (補足 2; 上記の分析方法で得られた計算結果で、数字の全ての桁を使用してはいけない。コンピュータの計算は、元のデータの精度を考慮に入れないため、無駄に桁数が多くなります。計算結果の数値は、元のデータの桁数に基づき、適切な桁数の数値のみを使用しましょう。具体的には、元データの桁数と同じ桁数だけ使用するのが通常の設定方法です(元データが小数点以下1桁までのデータなら、計算結果は小数点以下2桁目を四捨五入して小数点以下1桁までの数値を使用する)。何らかの事情で、元データよりも多い桁数を設定するとしても、一桁多めにする程度にしましょう。

(3) データの関数変換を行う

1) SAS Enterprise Guide を起動し、使用するデータの表が表示されている状態まで進める。

- 2) 上部メニュー内の [データ]をクリックし、その下に表示されるメニュー内の [フィルタ
 - とクエリ]をクリックする。 🕵 SAS Enterprise Guide - Sample-Load ファイル(E) 編集(E) 表示(V) コード(C) データ(D) 記述統計(S) グラフ(G) 分析(A) 読み取り専用(E) 首・盧・嶺 昌 ゲ �� 亀 × | ゆ フィルタとクエリ(E).. 15 SASUSERIMPW_0006 (プロセスフロー) ・ プロジェクトエクスプローラ 行(<u>R</u>) ŧ X 🂽 Sample-Load 列(L) 🖻 🎭 プロセスフロー 移動(G)... Ctrl+G ١N 🖻 🎥 Samplexis (Sample\$) l n 「肥玉」テニードル /hitebo/ D) 6 m () 10
- 3) 新しいウィンドウが開くので、左側の変数のリストから変換する変数を選び、ダブルク
 - リックし、右側の枠内にその変数が表示されていることを確認する。

| | | | x |
|---|--|---|---------------------------|
| - クエリ名(Q): SASUSERIMPW_0006のか | IU 出力名(Q): | SASUSER.Query_for_SASUSER_IMPW_0006 | 変更(<u>C</u>) |
| ■ 計算列(M) ■ パラメータ(P) 図 検証(V) | ・ 蔵 ブレビュー(E) 図 オブ | °∕∋∠(N) + | |
| ■ 追加(①… 🗙 削除(D) 🖷 結合(J) | データの選択 フィルタデータ | データの並べ替え | 1 |
| □ ﷺ IMPW_0006 | 列名 @'GPT(IU/I)'(GPT(IU/ | 入力 概要 IMPW_0006.GPT(IU/I) | |
| → | | Image: set of the set of th | • • • |
| 1 | ・ 要約グループーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー | | ープの編集(<u>G</u>) |
| [GPT(IU/I) (GPT(IU/I)) [GPT(IU/I) (Iog(GPT)) [0] Iog(GPT) (Iog(GPT)) [0] γ-GTP(IU/I) (γ-GTP(IU/I) | グループが選択されていません | | <u>_</u> |
| 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | □ 重複しない行のみ選択する | 5(S) | |
| | | 実行(<u>B)</u> 保存して閉じる(<u>A</u>) キャンセ | ul |

4) 左上にある「計算列」をクリックする。



5)「計算列」というダイアログが開くので、右上の「新規作成」ボタンをクリックし、その 下に新たに表示されたメニュー内の「式の作成」をクリックする。

| 鬱 計算列 | × |
|----------------------|---------------------|
| | 新規作成(N)▼ |
| | 列の再コード化(<u>R</u>) |
| | 式の作成(B) |
| | 肖耶余(<u>D</u>) |
| | 名前の変更(B) |
| | 閉じる |
| ✓ クエリに新しい計算列を追加する(A) | |
| | 11 |

6)「拡張式エディタ」というダイアログが開くので、左中央の「関数」タグをクリックし、
 右下の「関数」の下のリストから、変換に用いる関数を選び、ダブルクリックする。
 (例;対数変換を行う場合は、「LOG」の関数を選択する)

| Σ■拡張式エディタ 式テキスト(T): | _ | X |
|--|--|-------------------|
| | | × |
| + - × / ** AND OR NOT = | $\Leftrightarrow & $ | (X) (X) []] () , |
| データ、関数 | 式のクリア(<u>C</u>) | 式へ追加(D) |
| カテゴリ: すべての 関数 集計 算術 ビットごとの論理演算 文字 文字列の合致 条件 Data Quality (SAS/DQUALITY が必要です) 日付と時間 DBCS 記述統計量 外部ファイル | 関数: ABS AIRY ARCOS ARSIN ATAN ATAN ATTRC ATTRC ATTRC ATTRC ATTRC ATTRC ATTRC ATTRC ATTRN AVG {All} BAND BETAINV BLSHIFT | × |
| ABS(引数) ABS 関数は、引数と同じ大きさの正の数を返します。 | | |
| | ОК | |

7)「式テキスト」の下のボックスに選択した関数が表示されるので、その中の「<numValue>」 をマウスで選択した後、「BackSpace」キーか「Delete」キーで削除する。

| Σ尋拡張式エディタ | |
|-----------------|--|
| 式テキスト(工): | |
| LOG(KnumValue>) | |
| | |
| | |
| | |
| + - * / ** | |
| | |

8) 左中央の「データ」タグをクリックし、「変数値」の下のリストから変換する変数を選んでダブルクリックし、「式テキスト」の下の関数の中にその変数が表示されたことを確認した後、最下部の「0K」ボタンをクリックする。

| Σ曄拡張式エディタ | | × |
|------------------------------|---|-----|
| 式テキスト(工): | | |
| LOG(IMPW_0006.'GPT(IU/I)'n) | | - |
| | | |
| | | - |
| + - * / ** AND OR NOT = | $ \hspace{.1cm} \diamond \hspace{.1cm} \hspace{.1cm} \langle \hspace{.1cm} \hspace{.1cm} \langle \hspace{.1cm} \hspace{.1cm} \rangle \rangle = \hspace{.1cm} .1cm$ | , |
| | 式のクリア(C) 式へ追加(D) | |
| データレ戦」 | | |
| 使用できる変数(<u>A</u>): | 変数値(<u>R</u>): | |
| □ 📰 IMPW_0006 | ▲ 変数名 変数ラベル ▲ | |
| → (2) [1] | ▲ 尿溶皿 尿溶皿 → 赤血球(万個/ 赤血球(万個/mm3) | |
| 一 性別 | → (@ 血色素(g/dl) 血色素(g/dl) | |
| | (ii) ^7h9Jyh(%) ^7h9Jyh(%) | |
| | | |
| | | |
| | ▼ 複数の値を取得(G) | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 1 | | |
| l | OK キャンセル ヘルプ | |
| | | /// |

9)「拡張式エディタ」が閉じて、「計算式」ダイアログに戻るので、左のボックス内に表示 されている「Calculation1」をクリックした後、「名前の変更」ボタンをクリックする。



10)変換後の変数の名前を適当に入力した後、「閉じる」ボタンをクリックする。

| 斷 計算列 | × |
|----------------------|-------------------|
| Log(GPT) | 新規作成(N)▼ |
| | 編集(E) |
| | 肖/除(<u>D</u>) |
| | 名前の変更(<u>R</u>) |
| | 閉じる |
| ▼ クエリに新しい計算列を追加する(A) | |

- 11)新しい変数名が、変換する変数の下に表示されていることを確認した後、「実行」ボタンをクリックする。
- 12) 変換前のデータと変換後のデータの表が表示されるので、これらを用いて、「(1) ヒス トグラムおよび、累積度数分布の確率プロットの表示」で正規分布の確認を、「(2) 代表 値とばらつき(散布度)の求め方」で代表値とばらつき(散布度)を求める。

- (4) 度数分布表の作り方
 - 1) SAS Enterprise Guide を起動し、使用するデータの表が表示されている状態まで進める。
 - 2) 上部メニュー内の [記述統計]をクリックし、その下に表示されるメニュー内の [一元度 数表]をクリックする。



3)新しいウィンドウが開くので、度数分布表を作成する変数を「変数リスト」の下のリス トから選んでクリックする。そして、その右隣りにある右向き矢印のボタンをクリックし、 新たに表示されたメニューから「分析変数」をクリックする。

| ダイトジル (資子氏名) (資子氏名) (資数力ウント(資訊の上限:1)) (資子告給力) (資子合階級) (資子合階級) (資子合階級) (資子合階級) (資子合階級) (資子合階級) (資子合階級) (資子教)(年) (資子教(年)) (資子教(年)) (資子教(年)) (資子教(年)) (資子教(年)) (資子教(年)) (資子教(年)) (資子教(年)) (資子教(年)) (夏数力ウント) (夏数力ウント) (資子教(年)) (資子教(年)) (夏数力ウント) (夏秋市ウント) (資子教(年)) (資子教(年)) (資子教(年)) ((行保)) (資子教(年)) ((行保)) ((行保)) ((行保)) (資子教(年)) ((行保)) ((行保)) ((行保)) | クラフ 名前 「 タイトル ② 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 | 字氏名 別 論(才) 今階級 煙 数(年) 数(本/日) 長(cm) 重(Kg) 高血圧(mmHg) 鴉 蛋白 潛血 血球(万個/mm3) 色素(g/d) | ▲ 御分析変数 ● 度数カウント (違択の上限:1) ● のののののののののののののののののののののののののののののののののののの | Image: Control of the state | |
|---|--|---|--|---|---|
| | | | | | × |
| 実行(B) 上書き保存(S) キャンセル ヘルプ "分析変数" 役割には少なくとも 1 変数を書的当てる必要があります。 | ードのプレビュー(⊆) 分析変数″役割には少な | 】 とも1 変数を割り当てる必ら | | キャンセル ヘルフ | |

- 4) 右の「タスクの役割」の下の「分析変数」の下に、選択した変数名が表示されているこ とを確認する。
- 5) 左端のメニューから「統計量」をクリックし、新たに表示された右側の画面で、「度数 とパーセント」の前の丸をクリックしてマークを付ける。更に、その下の「欠損値」で「1 つのカテゴリーとして集計する」にもチェックを入れる。

THE PARTY OF

(注:分析する内容によっては、欠損値を集計する必要が無い、あるいはしない方が 良い場合もあり、その場合は、上記の「欠損値」の項目にはチェックは入れない) **N**

| 統計量 グラフ 結果 タイトル | 度数分布表のオブション 表示する項目: の累積度数と累積パーセン ト(の) の 度数と累積パーセン に の 度数と又積パーセン に の で 度数と累積パーセン に の で 度数と累積パーセン に の で し の の の の の の の の の の の の の | 二項比率に関する検定 「 漸近検定(A) 「 正確な p 値(P) 検定の比率(D) 05 信頼水準(Q) 95% ▼ | 正確な計算. データによっては計算時間がか かる場合があります。 ✓ 計算時間を制限する(L) 秒(D): 900 ■ モンテカルロ推定を使用する |
|--------------------------|---|---|---|
| • | - 欠損値 「 接数を表示 9 るい」) ▼ 1 つのカデゴリとして集計する (1) | - X2 乗検定 | |
| | 二項検定または x2 乗検定の欠打 | 員値の度数を保存します。 実行(B) 上書き保有 | ▲ ▼ 存(S) キャンセル ヘルナ |

6) ヒストグラムも作成する場合は、左端のメニューから「グラフ」をクリックし、新たに 表示された右側の画面で、適切な棒グラフを選択する。

| _ <u>∭ IMPW_0006 (0)</u> - | | × |
|----------------------------|---|--------|
| タスクの役割 | <i>り</i> ラフ | |
| - 続計量 グラフ 絵果 タイトル | 棒グラフ ● 潤方向(1) ● 弧方向(2) ● 弧方向(2) | |
| | | |
| | 度数の棒グラフを表示します。横棒グラフまたは縦棒グラフ、あるいはその両方を表示することができます。 | A V |
| 「」 」 ードのプレビュ | 1-(<u>C</u>) 実行(<u>R</u>) 上書き保存(<u>S</u>) キャンセル ・ | NI7 |
| - | | |

7) 全ての設定が完了したら、最下部の「実行」ボタンをクリックする。

- (5) データの再分類
 - 1) SAS Enterprise Guide を起動し、使用するデータの表が表示されている状態まで進める。
 - 2) 上部メニュー内の [データ]をクリックし、その下に表示されるメニュー内の [フィルタ とクエリ]をクリックする。



3)新しいウィンドウが開くので、左側の変数のリストから再分類する変数を選び、ダブル クリックし、右側の枠内にその変数が表示されていることを確認する。

| | | | | × |
|---|------------------|--------------------|-------------------------|----------------|
| クエリ名(Q): SASUSERIMPW_0006 のク | エリ1 出力名(①): | SASUSER.Query | 1_for_SASUSER_IMPW_000 | 変更(<u>C</u>) |
| 🏢 計算列(M) 📑 パラメータ(P) 🔊 検証(V) | • 🗟 ブレビュー(E) 🔮 オ | プション(<u>N</u>) ▼ | | |
| | データの選択)フィルタデータ | データの並べ替え | | |
| | 利名 | λ μ | 概更 | |
| F1 (F1) | ▲ '喫煙' (喫煙) | | 10130 | |
| (漢字氏名) 漢字氏名(漢字氏名) | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (| | | | |
| □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | - 亜約ガループ | | | |
| | ロ グループを自動選択す | 3(U) | ガルー | づの編集(G) |
| - (a) GPT(IU/I) (GPT(IU/I)) | ガル、分松路中かわています | +/ | | |
| - (j) log(GPT) (log(GPT)) | クルーフが現代されている | 270 | | |
| $= \frac{1}{100} \gamma - \text{GIP}(10/1) (\gamma - \text{GIP}(10/1))$ | | | | |
| → 判定肥満(判定肥満) | □ 重複しない行のみ選択 | ≢る(<u>S</u>) | | |
| | | | | |
| | | 実行(<u>R</u>) 保存 | して閉じる(<u>A</u>) キャンセル | - ヘルプ |
| | | | | // |

4) 左上にある「計算列」をクリックする。

| | 🖽 追加(T) | ¥前16(D) | ■a 結合(J) | データの選 |
|---|------------------|--------------|--------------|---------------|
| C | ⊞計算列(<u>M</u>) | アパラメータ(E | り 🔊 検証(V) | • <u></u> 同 ブ |
| | クエリ-タ(0): | SASUSER | IMPW_0006 のク | IU |
| | SASUSER IMP | 'W_0006 のクエリ | - クエリビルダ | |

5)「計算列」というダイアログが開くので、右上の「新規作成」ボタンをクリックし、その 下に新たに表示されたメニュー内の「列の再コード化」をクリックする。

| 斷 計算列 | × |
|----------------------|---------------------|
| | 新規作成(N)▼ |
| | 列の再コード化(<u>R</u>) |
| | |
| | |
| | 名前の変更(B) |
| | 閉じる |
| ✓ クエリに新しい計算列を追加する(A) | |
| | |

6)「項目の選択」というダイアログが開くので、「項目の選択」の下のリストから再分類す る変数をクリックし、最下部の「継続」ボタンをクリックする。

| • | ۶X, | UH I | ~ / | ' /r⊭ | ш/уц] | ~~~ | ~ | 2 / | | // | 1.00 |
|---|-----|------|------------------------------|---|---|-----------------------------|---|---------------|----|------|------|
| | 戼 | 目の道 | 鈬 | | | | | | | | × |
| J | 項目 | の選択 | ₹: | | | | | | | | |
| | | | 、 P F 漢性年年職年本身体最最尿尿尿赤血、G < | (1) 字別 論令 顕微数長重高低 () 金澤市 10 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 | 6 元名 才) 新羅 手(日) (g) (m) (g) (m) (m) (m) (m) (m) (m) (m) (m | mHg) mHg) /mm3)) | | | | | * |
| 1 | | 9 | | | | | | | | | |
| | | | | | Ť | 拙続(⊆) | | \mathcal{V} | ++ | っしせん | · |
| | | | | | | | | | | | |

7)「列の再コード化」というダイアログが開くので、もし、新しい変数名を付ける場合は、 「新しい列名」の右横のボックス内の名前を変更する。次に、その下の「追加」ボタンを クリックする。

| 鬱 列の再コード化- IMP₩_0006 喫煙 | | | | |
|-------------------------|------------------|-----------|--|--|
| 新しい列名(<u>N</u>): | Recode_喫煙 | | | |
| 置換(<u>E</u>): | 道加(為) | <u>E)</u> | | |
| 置換 | 置換後 | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| - 他の値 | | | | |
| すべての他の値を次 | の値で置き換える: | | | |
| ・現在の値(C) | | | | |
| ○ 欠損値(<u>M</u>) | | | | |
| ○ 値(丁): | | | | |
| 一新しい列の種類 | | | | |
| ◎ 文字(出) | ○ 数値(<u>U</u>) | | | |
| | OK キャンセル ヘル | 1 | | |
| | | // | | |

8)「置換の指定」というダイアログが開くので、中央右にある、「値の取得」ボタンをクリッ クする。

| 10 直 | 換の指定 |
|-------------------|---|
| 値 | の置換 |
| Ŀ | |
| E | |
| L | |
| | (t = 0.87×4.0.4 |
| | 10の収得(∀)▼ |
| | |
| تە | 値で置き換える(<u>W</u>): |
| ت | 値で置き換える(<u>W</u>): |
| この 「 ビン | 値で置き換える(<u>W</u>): ト: 欠損値は、空白 で表示されます。 |
| この 「 ビン | 値で置き換える(<u>W</u>): ト: 欠損値は、空白 で表示されます。 |

9)新しいダイアログが開くので、データ値のリストからどれかの値をクリックし、「OK」 ボタンをクリックする。

| データ値 | × |
|------------------|------------------|
| 值 A | 出力形式が適用された値 A |
| B | B C |
| | |
| | |
| ļ | |
| (Grosetm10)/是(A) | |

10)「置換の指定」ダイアログに戻るので、「この値で置き換える」の下のボックスに再分 類後の値を入力し、最下部の「0K」ボタンをクリックする。

| 電 置換の指定 | x |
|------------------------|----------|
| 値の置換 範囲の置換 | 1 |
| A | |
| | |
| | |
| | |
| | 値の取得(⊻)▼ |
| この値で置き換える(<u>W</u>): | |
| 1 | |
| ピント: 欠損値は、空白 で表示されます。 | |
| OK キャンセル | |

11) 7)~10)を繰り返して、再分類前の値と再分類後の値を全て設定する。

 例)例えば、「A」「B」「C」を「0」に、「D」「E」を「1」に再分類する場合は、 最初に9)で「A」を選んだ後、10)で「0」を入力、
 次に9)で「B」を選んだ後、10)で「0」を入力、
 更に9)で「C」を選んだ後、10)で「0」を入力、
 その次に9)で「D」を選んだ後、10)で「1」を入力、
 最後に9)で「E」を選んだ後、10)で「1」を入力する

- 12)全ての設定が終了したら、「列の再コード化」ダイアログの最下部の「OK」ボタン をクリックする。
- 13)「計算列」ダイアログに戻るので、最下部の「閉じる」ボタンをクリックする。
- 14) 最初のダイアログに戻るので、最下部の「実行」ボタンをクリックする。
- 15) 再分類前のデータと再分類後のデータの表が表示されるので、これらを用いて、「(4) 度 数分布表の作り方」に従い、度数分布表を作成する。

Copyright (C) 2011 渡辺博且, All Rights Reserved.